



丸火自然公園のようす

野鳥

春から夏にかけて

公園の低い木のでっぺんで、チョン・チョン・ピーツツ・チョン・チュリー。チョン…と、ホウジロがさえずり、ウグイスも、ホー・ホケキョ・ケキョ・ケキョ。と春の訪れを伝えてくれます。



初夏になると、南からカッコウや、ホトトギスが渡ってきます。夏の夕ぐれ、キョ・キョ・キョ。とヨタカが鳴き、季節の移り変わりを知らせてくれます。

このころ注意して観察すると、ツキ(月)・ヒ(日)・ホシ(星)・ポイ・ポイ・ポイ。とさえずり、目がコバルト色で長い尾をなびかせて飛んでいる「三光鳥(サンコウチョウ)」を見かけます。この鳥は、静岡県県の鳥になっています。

このほか、この時期に見かけるおもな野鳥と、その鳴き声を紹介して見ましょう。

◇カッコウ (ホトトギス科)

カッコー・カッコー。と鳴く渡り鳥です。この鳥は、ちゃっかりもので、モズ、ホオジロ、アオジ、キセキレイ、ノビタキなどの巣にタマゴをあずけて、ひなを育てさせます。

◇クロツグミ (ツグミ科)

キキコ・キキコ・キョイ・キョイ・キョ・キョコ・キョコ・ピョピア。と美しくほがらかに鳴く渡り鳥です。

◇キビタキ (ヒタキ科)

ヒヒ・ヒヒ・ヒヒ・ヒヒ・キョロ・キョロ。とかなしげにさえずる渡り鳥です。

◇オオルリ (ヒタキ科)

ピッ・ピッ・ギチ・ギチ・ギチ。と美しい声で鳴く

ルリ色の美しい渡り鳥です。

◇センダイムシクイ (ウグイス科)

シッチピー・ジー。と鳴く渡り鳥ですが、聞く人によっては「焼酒(しょうちゅう)いっぱいグイー」とも聞えます。

◇アカハラ (ツグミ科)

キョロン・キョロン・ジー。と鳴きます。

秋から冬にかけて

秋も深くなり、草や木の実が落ちるところになると、カケスの美しい姿が目につきます。カケスは、姿に似あわず、ジェーイッ・ジェーイッ。と鳴き、あまり気持のいいものではありません。



ときどき草むらから、大きな羽音(はおと)をたてて、コジュケイが飛びたちます。もともと中国産の鳥でしたが、東京のある人が大正時代に、庭に放ったのが、日本の気候、風土にあったためか、しだいにふえて、今ではいたるところで見られるようになりました。

寒さが一段ときびしくなると、シベリヤ方面からカシラダカの大郡が渡ってきます。これらの鳥たちは、カラッ風の吹きぬける林のなかで、春の訪れをまっています。このほか、公園内で見られる野鳥は……

◇マヒワ (アトリ科)

チュウィーン・チュウィーン。と澄んだ声で鳴くスズメより小さい渡り鳥です。

◇ウソ (アトリ科)

フヒー・フヒー。と人間の口笛そっくりに鳴き、ぼら色のノドをしています。この鳥は、夏は富士山の2~3合目付近、冬は公園付近と、季節により移動するので漂鳥(ひょうちょう)と呼ばれています。

◇ツグミ (ツグミ科)

ムクドリよりやや大きい鳥で、シベリヤ方面から渡ってきます。

◇カワラヒワ (アトリ科)

スズメより大きく、大群で渡ってきます。

表紙のことば

「敬老の日」を中心に市内20の地区で敬老会が行われました。

ことし、一番の長寿者は市内岩本17の小林つねさんが、この10月2日の誕生日で満101歳。2年連続の最高齢者です。小林さん宅では、現在、長男の常蔵さん(71歳)夫婦をはじめ、孫、曾孫(ヒマゴ)の三夫婦が同居している長寿一家。きょうも玄孫(ヤシャゴ)にあたる慈ちゃん(3歳)が、モミジのような可愛い手で、つねばあちゃんの肩をやさしく叩いていました。

市発明くふう展

- ・とき 10月6日(土)~8日(月)
- 9:00~18:00(8日は15:00まで)
- ・ところ 富士文化センター第1、2、3会議室